禁転載複製
当日配付
試験終了後公開

D17

「中央職業能力開発協会編」

令和5年度 技能検定
3級 配管 学科試験問題
(建築配管作業)

1. 試験時間　　1時間
2. 問題数　　30題
3. 注意事項

(1)　係員の指示があるまで、この表紙はあけないでください。

(2)　答案用紙(真偽法用)に検定職種名、作業名、級別、受検番号、氏名を必ず記入してください。

(3)　係員の指示に従って、問題数を確かめてください。それらに異常がある場合は、黙って手を挙げてください。

(4)　試験開始の合図で始めてください。

(5)　解答の方法(真偽法)は次のとおりです。

イ.　一つ一つの問題の内容が正しいか、誤っているかを判断して解答してください。

ロ.　答案用紙(マークシート用紙)へ解答する際は、答案用紙に記載されている注意事項に従ってください。

ハ.　答案用紙の解答欄は、試験問題の題数に応じて解答してください。解答欄は100題まで解答できるようになっています。

(6)　電子式卓上計算機その他これと同等の機能を有するものは、使用してはいけません。

(7)　携帯電話、スマートフォン、ウェアラブル端末等は、使用してはいけません。

(8)　試験中、質問があるときは、黙って手を挙げてください。ただし、試験問題の内容、漢字の読み方等に関する質問にはお答えできません。

(9)　試験終了時刻前に解答ができあがった場合は、黙って手を挙げて、係員の指示に従ってください。

(10)　試験中に手洗いに立ちたいときは、黙って手を挙げて、係員の指示に従ってください。

(11)　試験終了の合図があったら、筆記用具を置き、係員の指示に従ってください。

1　銅管の管端をばり取りする場合は、サイジングツールを使用する。

2　鋼管の切断には、リーマを使用する。

3　ねじ接合では、ねじ込み後の余ねじ部にさび止め塗料を塗布する。

4　給湯配管において、銅管と銅管の接合方法には、ねじ接合もある。

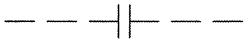
5　屋内排水管の漏水の有無は、満水試験によって調べることができる。

6　配管の保温材の厚さは、管内の流体温度が同じであれば、管径が異なっていても一定である。

7　被覆アーク溶接は、電力によってアークを発生させ、その熱を利用して金属を接合する方法である。

8　日本産業規格(JIS)によれば、配管用炭素鋼鋼管の記号は、SGPである。

9　空気調和・衛生工学会規格(SHASE－S)において、次図は、ユニオン継手を表す図示記号である。



10　労働安全衛生法関係法令によれば、3m以上の高所から物体を投下する場合でも、下に人がいなければ、そのまま投下してよい。

11　汚水管の勾配は、急勾配にするほど汚物の流れが良くなる。

12　鋼管と銅管を接続する場合は、絶縁継手を使用する。

13　受水槽のオーバーフロー管は、排水管に直接接続してよい。

14　排水管のトラップを二重に設けると、排水の流れが良くなる。

15　揚水ポンプの吐出管には、逆止め弁と仕切弁を取り付けるとよい。

16　25A鋼管を継手にねじ込む場合のねじ込み長さは、30mmを標準とする。

17　配管の支持間隔は、配管径が大きいほど短くするとよい。

18　ねじ継手の施工には、管内流体に適したシール材を使用する。

19　通気管は、排水管内における排水の流れを円滑にする役割をもつ。

20　ボールタップによるウォータハンマ防止に、波よけ板の使用は有効である。

21　配管用炭素鋼鋼管と一般用ステンレス鋼管とを直接接合すると、管の腐食原因となる。

22　揚水管のウォータハンマを防止するには、管内の流速を速くするとよい。

23　通気管の目的の一つは、トラップの封水を保護することである。

24　水圧試験は、配管完了後の塗装又は保温施工前に行う。

25　スプリンクラー消火設備は、電気室の消火に適している。

26　圧力計の最高目盛は、一般に、最高使用圧力の1.5～3倍のものを使用する。

27　圧力計は、揚水ポンプ吸込み側に取り付け、連成計は、吐出し側に取り付ける。

28　元止め式ガス瞬間湯沸器は、給湯配管を行い、水栓を設けて使用する。

29　日本産業規格(JIS)の建築製図通則によれば、次図は、壁一般を表す材料構造表示記号である。



30　日本産業規格(JIS)の建築製図通則によれば、次図は、片開き窓を表す平面表示記号である。

